# 西島義則がSG3連覇を達成 公営競技初の3連単が発売開始!

## 2000年

### 第1回競艇名人戦は大成功

〝ミレニアム〟と呼ばれた2000年は、実に話題が豊富な年となった。まず3月に丸亀で行われた女子王座決定戦（レディースチャンピオン）が、この第13回からGⅠに昇格。さらに優勝者は、このレース直後の総理大臣杯（クラシック）の出走権が与えられることになり、女子選手のSG参戦に大きな道が開かれた。ちなみに柳澤千春が優勝し、SG初切符を手にした。

GⅠ昇格後初の女子王座を制した柳澤千春

### 2000年主な出来事

- ○警察不祥事・食品事故・医療ミスの多発と隠蔽など社会信用失墜
- ○サザンオールスターズの「TSUNAMI」が大ヒット
- ○PlayStation 2が発売
- ○BSデジタル放送開始

【流行語大賞】おっはー（慎吾ママ）、IT革命（木下斉）

続く4月には、競艇名人戦（マスターズチャンピオン）が創設。第1回は住之江で行われ、開始当初の出場資格は50歳以上だった。ボートレースが何よりも好きだった漫才師・横山やすしのポスター、鳥羽一郎が歌うテーマソングも評判となり、開幕後は売上も上々。高山秀則がいきなり完全Vを飾り、大盛況で幕を閉じた。

### 西島義則がSG3連覇

SG戦線は広島軍団の独壇場となった。まず夏場に西島義則が史上2人目のSG3連覇を成し遂げた。6月の下関グランドチャンピオンでは2号艇からインを奪取して逃げ切り。7月のオーシャンカップは地元・宮島での開催。先行する島川光男と植木通彦を2周1マークで、2艇一気に差し切った。そして3連覇がかかった若松MB記念（メモリアル）では優出を果たすも6号艇。進入争いには参加せず5コースだったが、1マークでセンター勢がこぞって攻め合う形に。ポッカリと差し場が開く奇跡的な展開になり、西島が差しを決めて、野中和夫に次ぐ26年ぶりというSG3連覇を達成した。

一方、賞金王決定戦（平和島・グランプリ）では、市川哲也が3コースからまくって快勝。最多賞金獲得選手に加え、最多勝利選手とのWタイトルに輝いた。なお、最優秀選手には西島が選ばれた。

### 優秀選手表彰

| | |
|---|---|
| 【最優秀選手】 | 西島義則 |
| 【最優秀新人選手】 | 平田忠則 |
| 【最多勝金獲得選手】 | 市川哲也 |
| 【最高勝率選手】 | 植木通彦 |
| 【最多勝利選手】 | 市川哲也 |
| 【優秀女子選手】 | 寺田千恵 |
| 【記者大賞】 | 西島義則 |

SG3連覇を達成した西島義則

### 10月に3連単が発売

ファンへの影響が絶大だったのが、10月13日初日の住之江開催から始まった3連単、3連複、拡連複の3つの舟券だ。「3着までを当てる」投票券は、全公営競技で初めてだった。

ボートレースの投票は、出走選手が公営競技では最少の6人で、最も組み合わせの多い2連単でも30通り。ギャンブラーにとっては配当が安めなのがネックではあったが、3連単では120通りとなって高額配当の期待が広がった。現在では約95%ものシェアを占める3連単だが、発売当初は40%前後だった。住之江以降、02年春までに全国で導入された。

# 「競艇」から「BOAT RACE」へ 呼称変更！ その理由とは？

## 2010年

### 競艇場もボートレース場へ

ボートレースは、その開始の頃から「競艇」をはじめ、「ボート」、「ボートレース」、「モーターボート競走」など、様々に呼ばれていた。それが1997年度から「競艇」に統一されてきたが、この2010年度から「BOAT RACE」（ボートレース）と呼称することになった。そのひとつの理由としては「世界に通用する呼び方にしよう」という提案もあったという。

それに伴い、各ボートレース場も「○○競艇場」から「BOAT RACE○○」へと刷新。選手養成所も「やまと競艇学校」から「やまと学校」へと名称変更した。

### やまと卒業生から初のSG覇者が誕生

01年に竣工し、88期の一部から訓練を始めた「やまと学校」（ボートレーサー養成所）。施設は申し分なかったが、実戦では卒業生の苦戦が目立っていた。

しかしながら、この年、ようやく同校卒業生初のSG覇者が誕生した。平和島・総理大臣杯（クラシック）を制したのは91期生の山口剛だった。続く浜名湖・笹川賞（オールスター）でも94期の岡崎恭裕が23歳の若さで優勝、さらに丸亀・オーシャンカップで90期の石野貴之が制し、やまと世代が一気に花開いた。

大村・グランドチャンピオンは湯川浩司が制して、グラチャンV3を達成。蒲郡・モーターボート記念（メモリアル）では50歳を目前にした今村豊、桐生・全日本選手権（ダービー）は瓜生正義、唐津・チャレンジカップを今垣光太郎と銘柄級が制し、住之江・賞金王決定戦（グランプリ）は中島孝平がまくって、初の賞金王とMVPを獲得した。

### 全国24場全てが減音モーターへ

選手にとって最も大きな出来事は、エンジンの減音化が一気に進んだことだろう。それまでの数年間で急速に減音化が進んでいたが、9月に宮島で減音機を導入したことにより、全場減音モーターとなった。このことは、実はファンにとっても大きな変更であり、予想の上でも重大なポイントとなっていた。

また、7月9日にボート界初のモーニングレースが芦屋にて開催された。当初は「ナイター時代にそんな朝早くからのレースなんて…」という声もあったが、その懸念をよそに好調なスタートを切った。

### 2010年主な出来事

- ○観測史上1位の猛暑となり、熱中症が続出
- ○日本年金機構が発足
- ○国勢調査が全国で一斉に実施
- ○スカスカおせち事件

【流行語大賞】ゲゲゲの（武良布枝）

### 優秀選手表彰

| | |
|---|---|
| 【最優秀選手】 | 中島孝平 |
| 【最優秀新人選手】 | 平高奈菜 |
| 【最多勝金獲得選手】 | 中島孝平 |
| 【最高勝率選手】 | 魚谷智之 |
| 【最多勝利選手】 | 勝野竜司 |
| 【優秀女子選手】 | 日高逸子 |
| 【記者大賞】 | 中島孝平 |

やまと世代初のSGチャンプとなった山口剛

中島孝平がインの濱野谷憲吾をまくって賞金王制覇